

## 水稲・ブドウ複合経営の労働構造と問題点

渡辺 幸一・溝部 宏宣

(大分県農業技術センター)

WATANABE, K. and MIZOBE, H.

Labor Use and Some Problems on Binominal Type Farming of Paddy Rice and Grape.

## 研究目的・方法

大分県宇佐郡安心院町は昭和40年から国営開拓パイロット事業による大規模なブドウ団地の造成が進み、ブドウ生産量は近年、急速な増加がみられる。安心院町のブドウ作経営農家 330戸のうち、水稲作部門との複合経営農家が大部分を占めるが、冬季を除いて、年間、比較的多くの労力を要するブドウ作プラス水稲作経営では、両部門間の労働競合が強く現われることが考えられる。このため、同町中山部落の典型的な複合経営農家1戸を調査対象農家とし、主として昭和45年の労力調査をおこない、労働構造の面から水稲・ブドウ複合経営における技術、経営上の問題点を検討した。

## 1. 調査結果

① 水稲作部門：水田面積 135a, 稚苗移植機械使用, 収穫入力。ブドウ作部門：園面積 117a, 構成品種, デラウエア26%, キャンベル・アーリー38%, マスカット・ベリーA 36%, 5年生樹, 栽植本数 10a 当り40本, 総出荷量4.5t。家族労力 2.1人, 部門別の年間所要労働時間は水稲作 831.8時間, ブドウ作2530.4時間であった。

② 7月中旬のブドウ作部門の労働は 278.7時間で、主に袋掛け作業 160.5時間(うち雇用労力投入 119.2時間), 房管理87.8時間等からなり、年間最大の労働ピークを形成している。次に大きな労働ピークは5月下旬～6月中旬で、主な作業はジベレリン処理, 新梢管理, 房管理であるが、新梢管理, 房管理は比較的、作業の適期幅が広い。

③ 両部門の労働競合がもっとも強く現われる時期は、やはり水稲作部門の田植期にあたる6月下旬～7月上旬である。6月下旬は水稲作部門労働90.4時間(田植作業56.8時間, 耕起・整地作業33.6時間), ブドウ作部門労働68.9時間(房管理51.3時間ほか),

旬計労働 159.3時間, 7月上旬はそれぞれ, 105.6時間(田植作業73.6時間, 耕起・整地作業24.0時間ほか), 122.8時間(房管理80.7時間, 袋掛け作業30.1時間ほか), 旬計労働 228.4時間で、水稲作部門の田植作業とブドウ作部門の房管理との労働競合が強く現われている。

④ 5年生樹のため、今のところ、収穫量はまだまだ少なく、収穫・出荷労働はデラウエア8月上旬～中旬, 151.4時間, キャンベル・アーリー8月中旬～9月上旬, 206.9時間, マスカット・ベリーA 9月下旬～10月上旬, 135.7時間で、水稲作部門は10月中旬～11月上旬, 381.2時間と品種別, 部門別に労力の時期的な配分が一応なされている。

## 2. 問題点と対策

① ブドウ作部門の新梢管理, 房管理は作業の適期幅がかなり広いとはいえ、水稲作部門との田植期における労働競合は依然強いので、その対策として、水稲作に直播栽培を取り入れ、田植期6月下旬～7月上旬の労働ピークをなくし、またブドウ作部門の上記作業労働を分散させる必要がある。すでに同部落の一部では乾田直播栽培が試みられている。

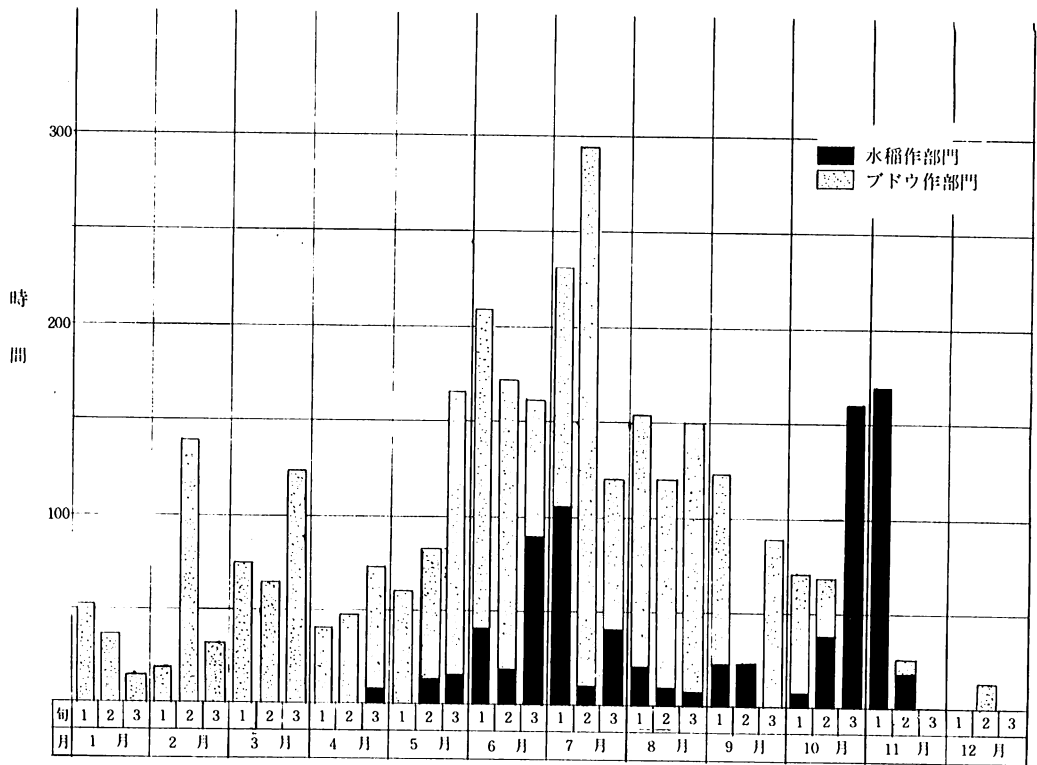
② ブドウ栽植本数10a 当り40本の密植栽培をおこなっているため、5月～7月間の家族労働は限界に近く、7月中旬の袋掛け作業に 119.2時間の雇用労力を導入している。徐々に栽植本数を減らし、10a 当り10本とする予定であるが、成木時の収穫量は現在の1.5～2.0倍になると見込まれ、ジベレリン処理, 房管理, 袋掛け, 収穫・出荷等の各作業において、さらに労働ピークの増大が予想される。ジベレリン処理はスプレー式器具等による省力化の方向にあり、袋掛け作業は無袋栽培の実用化が検討されている。しかし、このような省力化が可能になったとしても、収穫・出荷期には特に大きな労働ピークが

第1表 調査対象農家の部落概況(部落農家戸数47戸)

	農家戸数(戸)	家族労働力(人)	耕作面積(ha)					ブドウ品種別面積(ha)				
			水田	普通畑	桑園	ブドウ園	計	テラウエア	キャンベル・アーリー	マスカット・ペーリーA	その他	
水稲・ブドウ複合経営農家	32	75.7	31.3	2.7	0.2	32.0	66.2	9.8	11.9	9.3	1.0	
1戸当り平均	1	2.3	1.0	0.1	0.0	1.0	2.1	0.3	0.4	0.3	0.0	

予想され、かなりの雇用労力が必要となることが想定される。この対策として、昭和46年にはジベレリン処理労力をアルバイト高校生に求め、袋掛け作業、収穫・出荷作業は団地外の親戚、知人の雇用により補っている。しかし収穫・出荷期は8月上旬～10月上旬とかなり長期にわたり、しかも、団地全体にお

いて、雇用労力の需要が集中するため、それを満たすだけの雇用労力の確保が必要である。それは、もはやブドウ生産農家個々の問題ではなくして、地域全体の立場から、組織的な労力確保の体制(たとえば「労働銀行」のようなもの)をつくる必要がある。



第1図 調査対象農家における部門別旬別所要労働時間